

令和8年度第1回北杜市図書館協議会会議録

1. 会議名：令和8年度第1回北杜市図書館協議会
2. 開催日時：令和8年5月19日（火）午後3時～4時30分
3. 開催場所：金田一春彦記念図書館 SV ホール
4. 出席者：協議会委員 佐野 恭子／佐野 隆／仁科 恭子／飯田 久美子／白倉 美奈子
葦澤 ふみ子
欠席 内藤 雅人／河合 美知子
事務局 村松 佳幸(中央図書館長)
大塚 美智子／河野 明美(中央図書館総務担当)
浅川 玲菜（学校図書館司書代表）
5. 会長あいさつ
6. 議事録署名委員指名：佐野 恭子委員 佐野 隆委員
7. 議 事
 - (1) 令和7年度北杜市図書館事業報告について
 - (2) 令和8年度北杜市図書館事業計画について
 - (3) 第四次北杜市子ども読書活動推進計画進捗状況について
 - (4) その他
8. 公開・非公開の別：公開
9. 傍聴人の数：3人

議 事

- (1) 令和7年度北杜市図書館事業報告について【資料1】

事務局：令和7年度北杜市図書館事業報告書に基づき、主な事業について説明。

【質疑応答】

委 員：読書マラソン2025の巡回展示を行ったという報告があった中で、参加人数は明示されていないが、図書館利用者、あるいは市民の皆さんの反応、反響を教えほしい。

事務局：読書マラソンの巡回展示は、子どもにすすめたい本の巡回展示とあわせて2セットずつ用意し、2か月周期で2つの図書館で同時に展示出来るように回している。巡回展示の際は紹介している本が一堂に集まるので、子どもはもとより一般の利用者さんにも興味深く見ていただいております、貸出しも多くなっている。学校でも読書マラソンを行っているので、学校での様子を学校司書より伝えてほしい。

事務局：小淵沢中学校では年間を通じて展示をしている。読書マラソンで紹介されている本は、内容がとても良いので、特に夏休みの読書感想文を書くタイミングで生徒に薦めている。昨年度は、読書マラソンの本はほとんど貸出しになっていたような状態だった。冊子では、学校司書も紹介文を書いている。何をどのように薦めたら中学生に手に取ってもらえるか、日々考えながら紹介している本なので、自分自身も自信をもって薦めることが出来る。「本当に良

い本だよ」と言って薦めると、子どもも「じゃあちょっと読んでみようかな」となり、だいぶ手に取ってもらえるようになってきている。読書感想文の時期以外でも、かなり貸出しが多い状態となっている。

事務局：補足だが、学校図書館と公共図書館との連携会議の中でも、複数の学校から年間の貸出し上位をほとんど読書マラソンで紹介した本が占めていたという嬉しい報告もあった。この取り組みは、子どもに本を手にとってもらえるきっかけになるととても良い事業だと思っている。

議長：子どもの読書離れということが言われているが、図書館の方から積極的にアプローチしていくと反応があるということは有難いと思う。
他にあるか。

議長：学校と公共図書館との連携とういことに関連して一つ。小淵沢図書館の事業報告に図書給食展示というものがあるが、私自身、現在小淵沢小学校に勤務しているので、学校での様子をお伝えしたい。学校では、給食に関係する本を図書館の前に展示し、栄養士の先生が作成したレシピも本と一緒に置き、本と食べ物を結びつけるような取り組みを行っていた。食には子どもたちもとても興味があり、美味しいものを本で知ったり、自分で作ることに興味も湧く良い取り組みだったと思う。更に学校で取り組んだことを小淵沢図書館でも紹介してもらい、その様子を地域の人にも知ってもらう良い機会となったことを聞き、学校と図書館との連携は効果的だと思った。

委員：読書マラソンでは、読み物に限らず様々なジャンルの本を、子どもたちに紹介してくれている。図書館には行くが、何を読んでいいのかわからない子どもたちが、それを指針にしながら、本を読むということに繋がっている様になっている。子どもたちの様子を聞くと、今、電子書籍も結構流行っているが、紙の本をめくる楽しさは、電子書籍では味わえないと言う子どもたちもたくさんいて、図書館は、子どもたちにとって本当に大切な場所だと感じている。私自身も小淵沢中学校に勤務していた時に、物語の中の給食のメニューを何食か食べさせてもらったことがある。そのときは本にとっても興味も湧き、絵本を読ませてもらったりもし、とっても楽しかった。子どもたちは普段から給食が好きだが、図書給食のときは普段以上にたくさん食べたという記憶がある。だから、物語や本の中にあるものと、子どもたちを繋げるという活動は、とっても素敵な活動だと思う。その他にも、図書館では一度にたくさん本を借りられることが有難いという声も聞いている。一度に10冊以上貸してもらえるので、自分の好きな本も借りながら子どもの本も借りられるという素晴らしさがあるということ、小さい子どもを抱える若いお母さんから伺った。ぜひそういう地道な活動も、大切にしていっていただけるといいと思っている。

議長：他に何かあるか。

委員：普段ながさか図書館を利用するが、3月21日に開催されたながさか図書館のイベント、「文庫用ブックカバー&しおりを作ろう」に娘が友だちと一緒に参加し、自分が好きな布を選び、ミシンで縫ってブックカバーとしおりを作成するという経験をさせてもらった。持ち帰ってきて嬉しそうに見せてくれたが、文庫コーナーから自分が以前から読みたかった文庫を借りてきて、自分が作った文庫カバーをかけて読んでいる様子を見てとてもいいなと思った。本だけではなく、文庫カバーやしおりといった本に付属するものを自分で作

るというイベントもとても良かったと思う。またそのような機会があれば嬉しく思う。

議長：中学生が参加するイベントがあることはとても貴重なことだと思う。

その他、何かあるか。

委員：ながさか図書館のボブ・ディランがテーマの「ひとはこ図書館」と小淵沢図書館の「古本交換市こぶちさわ」についてお聞きしたい。これまでも定例で行っていたのかは記憶がないが、小淵沢図書館の古本市は参加される方もそれなりにたくさんいて、図書館の賑わいの創出という意味で効果的なのではないかと思う。それぞれの図書館で工夫し、独自の事業が展開創出されているが、もし効果的なら人員の問題等いろいろな制約があるかもしれないが、他の図書館でも取り組んでみたらどうかと思った。ながさか図書館のボブ・ディランのひとはこ図書館は、どのくらいの反響があったのか教えてほしい。また、効果があるとしたら、他の図書館でも同じように取り組んでいけるような余地がこれからあるのかどうかも教えてほしい。

事務局：ひとはこ図書館については、4年前から行っている事業。40cm×35cm位の箱の中に自分でテーマを決めて、作成者がその箱の館長になったつもりで、自分の図書館を作っていくというコンセプトで行っている。1年目は、一般を対象にながさか図書館のイベントとして行った。それをスタートとして、2か月ほど展示する中で、利用者の中から次に作ってみたいという人が現れて、どんどん繋がっていくことを期待して始めたのだが、作成に時間がかかることと、自然発生的に作成してみたいという声が出なかったという経緯もあり、一般を対象としたイベントとしては2回で終わってしまっている。その後は学校との連携会議で引き継いでもらい、学校の図書委員さんに作成してもらい、それぞれの近くの図書館で展示するという取り組みを行ってきているところ。そのような中、昨年度ながさか図書館に利用者さんからボブ・ディランの企画の持ち込みがあり、ひとはこ図書館を使って自分の世界を作っていたら、館内で展示を行った。このような申し出はとても嬉しいことなので、今後、一般の方の企画でひとはこ図書館が盛り上がっていけば、有難いと思っている。

委員：最近では書店等でも、お客さん自らが書店の主人になって書店の一角に自分のお気に入りの本を並べ、それを買ってもらうという取り組みもある様だ。図書館も蔵書を展示するというと、どうしても限られてしまったり、幅が広がらない場合もあるかもしれないが、今回のボブ・ディランのように、利用者の自らの蔵書を持ってきて見てもらい、場合によっては貸出しも出来るようにすると、関心の幅が広がるのかもしれない。この企画の利用者さんの反応を教えてほしい。

事務局：書籍に限らずCDも一緒に展示し、利用者さんにも好評だったと思うが、担当者から聞いて後日お答えしたい。

(担当者より補足)

展示資料は、北杜市図書館で所蔵しているCDと図書を職員が各図書館から集めた。メイン本となる『ボブ・ディラン裏切りの夏』に関しては、発売後にながさか図書館で購入し、ひとはこ図書館のメイン本として加えた。CDについては、ひとはこ図書館館長おすすめコメントも一緒に展示し、同時に企画者が寄稿した雑誌も展示した。

(担当者より回答)

様々な年齢層の方々の目に触れたと思うが、実際に手に取ったり借りていく方は、企画者

と同年代の50代後半～60以上が多かった印象。CDも図書もそれなりに貸出しがあった。予約が殺到するほどの反応はなかったが、手応えは感じた。

委員：もう一つ。小淵沢図書館の古本市について、他の地域への波及の余地はあるか。

事務局：この古本市は、小淵沢図書館を楽しむ会という市民団体の皆さんが実施している。小淵沢図書館は協力という形で場所を提供している。

委員：参加人数も多いので、団体の内輪だけで完結してしまうのはもったいないと感じる。面白い取り組みだと思う。

議長：以上でよろしいか。

他、質疑なし。以上。

議事（2）令和8年度北杜市図書館事業計画について【資料2-1 2-2】

事務局：令和8年度北杜市図書館主要事業について資料2-1より説明。

令和8年度北杜市図書館事業年間計画について資料2-2より説明。

資料2-1について

【質疑応答】

委員：今年度の図書購入費と前年度比を教えてください。

事務局：今年度の新規図書購入費は、9,286,000円程度を予定しており、それに加え指定寄付金として50,000円を図書購入費としている。書籍代以外に視聴覚資料費があり、253,000円を予定している。図書の購入費はほぼ昨年並。若干昨年度より増加している。

委員：前年度比ほぼ100%ということで承知した。ただ、184,000,000円という大きな予算の中で見ると5%不足ということになるので、北杜市全体が厳しい財政状況とは思いますが、引き続き図書の購入充実に向けて努力していただければと思う。

他、質疑なし。以上。

資料2-2について

【質疑応答】

委員：今年度の事業計画について、昨年のもを見直したり、新たに継続したりと各図書館でとても楽しそうな計画を立てていると感じる。その中で、講座も数多く計画されているように思う。むかわ図書館で柳沢吉保の講演会が予定されているが、図書館で行う講座は郷土資料館が行う地域の歴史のような講座なのか、それとも違う形なのか、一般市民はどちらなのかという疑問がある。図書館としてのねらいを教えてください。また、昨年度の講座の状況等も教えてください。

事務局：昨年度の講座の状況については、議題1の事業報告で報告させていただいた。記載したとおりの参加者があったので、どのイベントもとても好評だったということが伺える。各図書館の事業計画については、前度の反省を踏まえ、各図書館の特色を出しながら考えるわけだが、この資料2-2に記載されている計画は、令和8年度の予算を考えながら計画案

として出したもの。この計画を基に令和8年度の事業を再考し、内容を詰めて実施していく予定。定例のおはなし会等は昨年度並みに行い、昨年度好評だったイベントはそのまま、残して実施していくという意向が強いので、イベント自体は各図書館でほぼ変わっていないような状況。その中で何かしらの工夫を凝らしながら、昨年度より更に良いものにするために、ブラッシュアップしながらイベントを行っている。むかわ図書館の柳沢吉保の講演会に関しては、武川の歴史を知ってほしいという思いのもと今年度新たに計画した。柳沢吉保に関連する本を館内にも展示しながら大泉の図書館の初代館長、小林是綱氏を講師に講演を行うことになっている。この他にもむかわ図書館では今年度、ウィキペディアタウンも開催する。大泉からスタートしたイベントで、毎年各町をまわり、今年度のむかわで8回目となる。午前は地域の歴史等に触れながら町を散策して情報を収集し、午後は資料と擦り合わせながらウィキペディアに記事をアップするという、図書館ならではのイベントとなっている。ぜひ参加いただきたい。

議長:その他、いかがか。

委員:昨年度、たかね図書館の山岳講座に申し込んだが、定員がいっぱいで参加出来ないことがあった。そのときは参加希望者が多かった割に会場が狭く、たくさん的人数が入れないということがあったので、なるべく希望する皆さんが入れるような会場選びをしていただけると有難い。続けてもう一つ。ウィキペディアタウンと同様に JBBY（日本国際児童図書評議会）がすすめる本の展示も毎年図書館をまわしていると思うが、図書館によって参加者に違いがあるように思う。また、私自身ウィキペディアタウンには3回程参加させてもらったが、毎回同じような人が参加しているように感じる。JBBY が小淵沢図書館で行われたときは、ボランティアが参加するという形で行ったが、このような事業には、北杜市全域で人が集まるのか、それとも地域性のようなものがあるのかを教えてほしい。

事務局:最初にイベントの会場と参加者の割合について。その部分についてはなかなか読めないところがあり、中央館で開催するイベントも苦勞している。広い会場を押さえておいても思うような申し込みがなかったり、逆に狭い会場を確保したら、思いがけずたくさん申し込みがあったということも多々ある。委員の意見を参考にしながら、なるべく多くの方に参加いただけるような会場選びをしていきたい。会場については、講師や出演者の意向もある。出演者によっては、こちらは広い会場を望んでいても、こじんまりと狭い会場で行いたいという希望をいただくこともあるので、調整をしながら、今後イベントを計画していきたい。今の件はなるべく多くの方に足を運んでいただけるような会場選びをするとういことで、各館の担当者にも伝えていきたいと思う。JBBY については、地域性ということもあるかもしれないが、PR の仕方もあると思う。昨年度、金田一で行った際には、たくさんの方の来場者があった。どのイベントも集客には苦戦しているという印象だが、近ければ近いほど足を運びやすいのではないかとういことを各図書館のイベント報告書を見ながら実感している。北杜市は広いので、それぞれの地域で同じものを行っていければいいのかもしれないが、なかなかそうもいかないところもあるので、できるだけ周知をして足を運んでいただけるような工夫が必要だと思う。ウィキペディアタウンは午前中に各地域を散策して、午後に文章をまとめるという流れで行っているが、午前中は参加希望が多くても、午後になるとパソコン操作に慣れていない等を懸念して参加者が少なくなってしまうという現状もある。そのような状況も含め、

この事業は希望する人数に足りていないことが反省点となっている。今年はむかわ図書館で行うことになっているが、中高生にも参加してほしいという希望もあるので少しでも多くの方に参加いただけるよう、PRしていきたい。

議長：その他、何かあるか。

委員：業計画案全体の中の本の杜への招待状についてお聞きしたい。3歳児健診の対象者に招待状を渡して、おはなし会への参加を促すスタイルだと認識している。末っ子の時に招待状もらったが、おはなし会開催との日程が合わず、結局もらい損ねてしまったという思い出がある。図書館にはよく行くのだが、おはなし会の参加が条件なので結局もらえずに終わってしまったのだが、この招待状はどれぐらい利用されているのか。また、決まった本をプレゼントしているのか、それとも選べるような状況なのか教えてほしい。

事務局：本の杜への招待状について。現在、本をプレゼントする形の事業は、すでに終了している。プレゼントの引き換え期間は3年間の猶予があり、その中のどこかのタイミングで来ていただければという計画のもと行っていた。おはなし会への参加を促す招待状は、引き続き3歳児健診の折にブックリストとともに渡しているが、現在は、図書館独自の手作りのプレゼントを渡している。

議長：ブックスタートも含めて、生まれた時から、小さい子どもたちにたくさんの本に触れさせていくことの意義は本当に大きなものがあると思う。

他、よろしいか。

事務局：本日欠席の委員よりご意見をいただいているので、紹介させていただきたい。

8年度事業計画について

- ・季節や行事に合わせた取り組みはとても効果的だと思う。
- ・大人のための朗読会は、読む側にも聞く側にもメリットがある貴重な機会だと思う。ますます充実させていただきたい取り組み。
- ・北杜市の城、遺跡、自然、文化財など、北杜市をより深く知る内容が興味深い。

議長：以上でよろしいか。

他、質疑なし。以上。

議事（3）第四次北杜市子ども読書活動推進計画進捗状況について【資料3】

事務局：令和7年度末に子どもの施設を対象に行った、第四次北杜市子ども読書活動推進計画進捗状況アンケートについて成果と課題を報告。

【質疑応答】

議長：意見や質問はあるか。

委員：目を通した時に面白いなと思ったのはUberBooksと図書館人狼。子ども自身が主体的にかかわる取り組みが広がっているという報告があったが、子どもの発想がとても面白いと感じた。図書館だけに目を向けるのではなく、子どもの目線でこのような活動が取り入れていけるということがとてもいいと思った。ぜひ子どもが主体的に参加してイベントをするような機会がどんどん増えるといいなと思う。

議長：子どもの意見を取り入れた学校図書館の運営とうい項目で6ページになるが、何か関連であるか。小学校でもたくさん挙げられていて、子どもの意見を取り入れて、子どもが主体的

にかかわっていくことがとても素晴らしいと感じている。小淵沢小学校の様子を司書の先生に聞いてみたところ、読書週間中に読書ビンゴを行った際に、ビンゴのマスに入れるもののアイデアを図書委員の子どもたちに出してもらって項目を作ったり、しおりのデザインを考えてもらったとのことだった。節分の時には、怖い鬼のコンテストを行い、怖い鬼の絵を募集して図書館に展示し、どれが一番怖いか投票してもらい取り組みを行ったとのこと。絵を描くことで、普段図書館に来ない子どもが来るようになったり、意欲的に主体性を持って図書館に来て、司書の先生と話をしたり、本に興味を持つような機会になったということで、効果的な取り組みだったという話を聞いた。手を替え品を変え、子どもを本に親しませていく活動をたくさんの図書館で行っていると思うが、子どもたちに一緒に企画させるということで意欲が増すことは確かだと思う。

他にあるか。

委員：本に親しむことはとても大事だと思うが、図書館という場所が、居場所の一つになっているということが我が子を見ていると思うところ。中学校で小学校の友達とクラスが別になってしまったが、図書館で会うことで楽しい時間を過ごすことが出来るという交流の場所としての役割も子どもたちにとってはあるのではないかとこの一年間で感じたところ。子どもたちの居場所としての図書館の役割も、もっと掘り下げていってもらえたら嬉しいと思った。

議長：子どもたちの居場所になっているという話が出たが、何かあるか。

事務局：私が勤務する中学校では、ボードゲーム大会を昼休みに主催している。中学生になると、本を読む子と読まない子の差が出てきてしまい、読まない子はほとんど図書館には来ないので、図書館のハードルを低くしたいという思いで始めた。とりあえず、館内に入ってくれば何かしら興味を引くものがきっとあるのではないかとこの気持ちで、図書館のハードルを低くし、どんどんみんなに入ってきてもらうという考えで、委員会の子供たちがボードゲームを開催してくれている。図書館では静かに本を読む子どもたちもいるので、声を出したり、騒いだりするようものは避け、静かにできるボードゲームという形で、委員会の子供たちに担当についてもらい、昼休みの15分から20分ぐらいで開催している。このことにより、自分は本読まないから関係ないと場所だと思っていた、今まで来なかったような子どもたちが図書館に来ることによって、図書館のイメージが変わり、「サッカーの本あるじゃん」とか、「なぞなぞの本面白そう」等、自分もちょっと気になるものがあるなということに気づいてもらい、そこからいわゆる利用者になってもらえるといいと思う。そういった思いで、他の小学校も中学校もいろんな趣向を凝らして図書館に足を運んでもらう取り組みをしていると思う。居場所に関しては、やはりそれが今一番求められている部分でもある。中学生はすごく忙しかったり、課題に追われたり、疲れているときになかなか教室だとほっとできない部分もあるように思う。図書館には少し静かな場所で自分自身の心を休めたいとか、気を遣わずに大人と話したいという生徒が来る。先生には話づらいが、少し距離のある司書には話しやすい部分もあるのではないかと。本が主体の図書館だが、少しほっと出来るような居場所としての図書館のあり方という部分も、昨今の学校では考えていけるのではないかと。

議長：小学校でも全くその通りで、図書館に来るとほっとする子どもや、他の先生に話せなくて

も、司書の先生には思ったことが素直に言えるという子どもたちもたくさんいると思う。確かに図書館は本が主だが、居場所でもあると思う。周りには本があつて、それを目にしているだけでも環境は違ってくると思うので、これからもそのような場所であることを大事にしてほしい。

他にあるか。

事務局：この議題についても本日欠席の委員よりご意見をいただいているので、紹介させていただきたい。

北杜市子ども読書活動推進計画に向けたアンケート調査に関して

- ・読書離れの傾向、落ち着いて話が聞けない子どもの増加など、難しい状況の中、地域や学校において様々な工夫を凝らした読書活動が推進されていると思う。担当者の努力に敬意を表したい。本への興味を高めるためには、ビブリオバトルは有効な方法だと感じている。
- ・本に親しむ態度の形成には、幼少期の読書経験が大きく影響していると思う。マタニティカフェやブックスタート、子育て支援施設でのおはなし会などはとても有効だと考える。母親の膝で本を読んでもらう経験をいかに増やすかが大切だと思う。
- ・こども図書館まつりは子供が楽しめる企画が様々あり、本や図書館に親しむ有効な場であると感じる。準備が大変かと思うが、内容を工夫し継続してほしい。
- ・障害のある子どもや外国語を母国語にする子どもへの配慮があることは知らなかった。りとても大切な視点だと感じた。

他、質疑なし。以上。

議事（４）その他

今年度の図書館協議会の開催について

今年度は本日を含め、3回を予定している。2回目は9月末～10月前半、3回目は2月頃を予定している。

その他、委員、事務局ともになし。

閉会